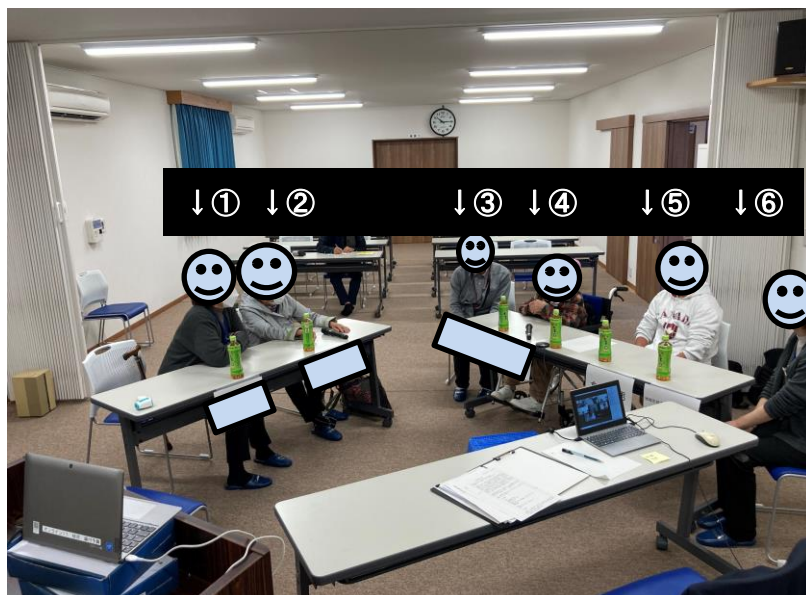


パーキンソン病 当事者の会の開催

地域ケア地区会議（安城市地域包括支援センター小川の里主催）のなかで、リハビリ専門職の方から、『「普段は、リハビリというサービスのなかで、1対1の関わりになることがほとんどで、同じ病気を持つ方同士の関わりや共有できる場があるといいんじゃないか」と思っていたけど、こういうことを誰に話していいのか分からない』という声があったり、パーキンソン病の方から「他の方はどうしてるんだろう」という声があり、それらを地域の声、課題と考え、「他の方の話を聞きたい」「話してみたい」と言われていたお二人を対象に、生活支援ネットワーク会議（安城市社協主催）という形で、当事者の方同士が話す場を開催しました。

お二人に移動の不安があったため、オンラインでの開催も検討しましたが、初めてだからこそ、直接会って話せる方がいいのではないかと考え、当事者の方が行ける距離にある、町の公民館を会場にできるよう町内会にもご協力いただき、また、話しやすい雰囲気になるよう、できるだけ会場の人数を減らし、会場に参加しない職員はオンラインでつないで、みてもらう形で開催しました。

「同じ病気の方から話が聞けて良かった。こういう場がまた増えるといいな」、「自分も頑張ろうと思った」など、当事者の方から前向きなお声をいただいたり、ご家族からは「とても参考になった」というご感想をいただきました。



- ②・④：当事者
- ⑤：当事者家族
- ①・③・⑥：包括職員

▲開催の様子